

震災+design

デザインは震災時の避難所のために何が可能か。

0. 東日本大震災支援プロジェクト「できますゼッケン」

- | | | | |
|------------|--------|----------|------------|
| ■医療 | ■英語 | ■法律 | ■力仕事 |
| ■看護 | ■中国語 | ■ヘアカット | ■裁縫 |
| ■高齢者・障害者介護 | ■韓国語 | ■簿記・会計 | ■洗濯 |
| ■鍼灸 | ■フランス語 | ■大工 | ■トイレ掃除 |
| ■臨床心理士 | ■手話 | ■イラスト | ■ベビーシッター |
| ■マッサージ など | ■点字 など | ■ギター | ■子供の世話 |
| | | ■無線通信 など | ■トラックの運転など |

健康面に関するサポート

医療・介護

コミュニケーションに関するサポート

ことば

特別な技能に関するサポート

専門技能

避難所での生活をサポート

生活支援



1. 「できますゼッケン」を産んだ震災+designプロジェクト(2008年実施)

実施期間 2008年9月～2009年10月

参加者 22大学44名の大学生、大学院生

所属大学

愛媛大学 大阪市立大学 大阪大学 大阪府立大学 大阪産業大学 関西大学 岐阜大学 九州大学 京都大学 神戸芸術工科大学 近畿大学 千葉大学 東京女子医科大学 東京造形大学 名古屋工業大学 明治大学 立命館大学 京都工芸繊維大学 京都造形芸術大学 武蔵野美術大学

プロジェクト形式

参加者が競い合い、勝ち負けを争うコンペ形式と参加者が協力し全員で作り上げるワークショップ形式の融合、ワークコンペ形式のプロジェクトです。

ワークショップ

コンペ

WORKSHOP + COMPETITION

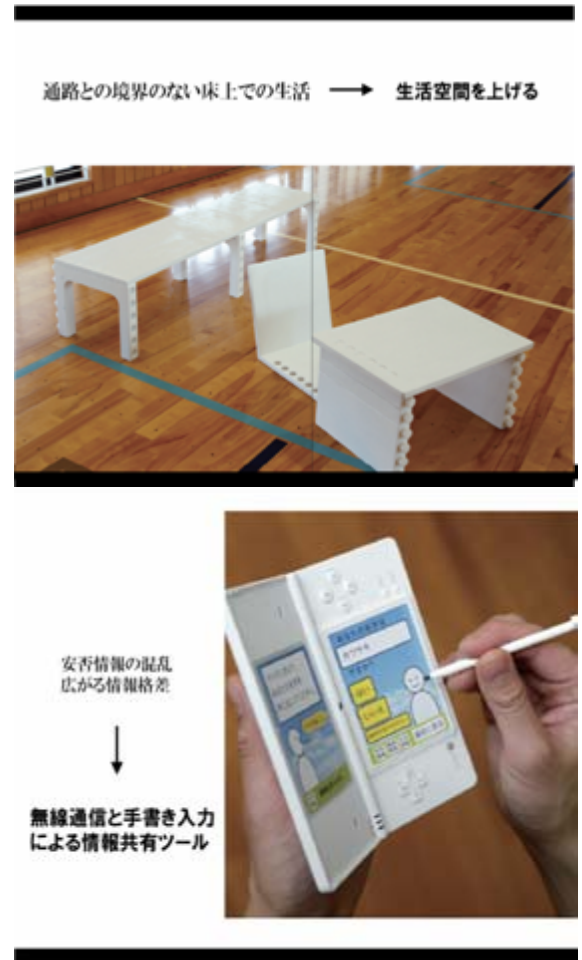
ワークコンペ

WORK-COMPE

課題

2011年、東京首都圏で阪神・淡路大震災レベルの大地震が発生しました。ある地域では住宅の倒壊等により居住地を失った約300人が近隣の小学校の体育館に一時的に避難しています。避難という非日常時には水不足、治安の悪化、住民同士の衝突等の様々な問題が生じます。それは時として死という最悪の事態にもなりかねません。避難所の中で起こりうる課題を明らかにし、それらを解決するデザインを提案してください。

2. 震災+designプロジェクトから生まれた数々のデザイン



3. 新プロジェクト「震災復興+design」2011年夏より始動中

震災復興 + design COMPETITION

2020年の被災地のためのアイデアを、募集します。

東日本大震災により、数多くの貴重な命が失われ、沿岸部のまちや集落は壊滅状態に陥りました。この震災で、我々日本人は「自然の猛威」と「科学の危うさ」を思い知らされました。同時に、「日本人の底力」と「つながりの大切さ」を実感したに違いありません。

10年後の2020年、この危機を乗り越えた先の被災地には、今までとは異なる新しい地域コミュニティが誕生するでしょう。そこには、どんな街が、住まいが、産業が、インフラが登場するのでしょうか？被災地が抱える中長期的な課題を発見し、その解決に必要な商品、サービス、空間、情報、仕組みのデザインを提案してください。

皆さんのアイデアの積み重ねが被災地・東北の未来をつくります。

